

1 事業名称等

【事業名称】近現代建造物緊急重点調査事業（土木）

【実施団体】公益社団法人 土木学会

【事業経費】1,954,235円

2 事業の目的

我が国の近現代の優れた建築物や土木構造物（近現代建造物）は、その優れた意匠や高い技術などにより国際的に高い評価を受けているが、文化財としての保存の措置がほとんど講じられていない。これらの適切な保護を図るため、緊急かつ重点的に調査を実施する。

土木調査では、主として20世紀に造られた優れた土木構造物について調査を行い、所在地、建設年、規模、構造、図面、現況などに関する情報を集約する。

令和3年度は、河川分野と砂防分野について2次調査、鉄道分野について1次調査リストの作成と2次調査を実施する。

3 業務の実績

(1) 業務の実施日程

1) 業務の実施日程

	令和3年						令和4年		
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1)1次調査(リストの作成)	■	■	■	■					
(2)2次調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(3)委員会の組織・運営		①							②
(4)報告書とりまとめ							■	■	■

2) 委員会の開催日程

開催回	開催日時	開催場所	主な議題
第1回	令和3年7月30日(金) 13:00~15:00	オンライン	○1次調査リストについて ○2次調査について ○調査スケジュールについて
第2回	令和4年3月10日(木) 10:00~12:00	オンライン	○2次調査について ○報告書とりまとめについて

(2) 業務の実績の説明

1) 1次調査（リストの作成）

戦後土木施設は大量の施設が現存していることから、それらの現存施設すべてを対象として、悉皆的にリスト化を進めることは効率的であるとは言い難い。一方、戦後土木施設は、分野ごとに専門性が高度化した結果、以下に例示する文献等において、すでに各分野における一定の価値づけに基づく施設がリストアップされている。

- ・『日本土木史』、『土木学会誌』等の土木学会関連の既存文献
- ・関連協会の協会史や研究所の年史（例：鉄道技術発達史（日本国有鉄道））
- ・土木学会賞や関連団体の技術賞等の受賞施設に関わる資料

そこで、鉄道分野においては、こうした既存リストを踏まえ、鉄道分野の小史に配慮しつつ、受注者が平成28年度の調査において実施した1次調査、ならびに平成30年度の調査において提案した「評価の枠組みの整理（案）」のための「ワークシート」との整合に留意し、1次調査リストを作成した。

2) 2次調査

河川及び砂防分野について、受注者が令和元年度及び令和2年度の調査において調査対象候補として抽出した物件を前提としつつ、各分野別小史及び「評価の枠組みの整理（案）」のための「ワークシート」を踏まえて2次調査物件を選定し、各物件について資料調査及び現地調査等の詳細調査を実施した。さらに、文化財保護の基礎資料となることを念頭に、調査結果を個別事例シートとして取りまとめた。

3) 委員会の組織・運営

本調査においては、成果の質を高めるため、下表のとおり専門家らからなる委員会を設置し、委員会の議論を踏まえ調査を実施した。

氏名	所属等	委員会職区分
佐々木 葉	早稲田大学院創造理工学研究科 建設工学専攻	委員長
阿部 貴弘	日本大学理工学部まちづくり工学科	幹事長
上島 顕司	一般財団法人みなと総合研究財団	委員
大沢 昌玄	日本大学理工学部土木工学科	委員
岡田 一天	株式会社プランニングネットワーク	委員
小川 紀一郎	アジア航測株式会社	委員
岡田 昌彰	近畿大学理工学部社会環境工学科	委員
小野田 滋	公益財団法人鉄道総合技術研究所	委員
木村 優介	京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻	委員
紅林 章央	公益財団法人東京都道路整備保全公社	委員
佐野 良久	株式会社高速道路総合技術研究所	委員

氏名	所属等	委員会職区分
澤 陽之	アジア航測株式会社	委員
土田 宏成	聖心女子大学現代教養学部史学科	委員
土井 祥子	アーバンデザインセンター坂井 (UDCS)	委員
中村 晋一郎	名古屋大学大学院工学研究科 土木工学専攻	委員
中村 一史	東京都立大学都市環境科学研究科都市基盤環境学域	委員
橋本 政子	道路文化研究所	委員
樋口 輝久	岡山大学大学院環境生命科学研究科	委員
小澤 広直	早稲田大学創造理工学部社会環境工学科	オブザーバー